



早慶和書電子化推進コンソーシアム  
二〇一九年九月から開始した早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターの図書館システム共同運用は、同じシステムを導入しただけでなく、双方の継続的な知識共有・人的交流にも繋がっている。早慶和書電子化推進コンソーシアムは、そういった背景のもと、コロナ禍の電子書籍利用の加速によって浮き彫りとなった和書電子書籍における課題（タイトル数、利用条件等）の解決を目的に、

二〇二一年五月に誕生した。紀伊國屋書店をパートナーに迎え二〇二二年十月からは一年半の期間限定での実験的プロジェクトを開始し、活動主旨に賛同を得た出版社五社のコンテンツ（約一、二〇〇点）の学内提供を実現している。

実証実験は始まったばかりであるが、このプロジェクトにより、将来的に日本国内における大学図書館向けの和書電子書籍のタイトル数が増加し、大学図書館にとって望ましい購入モデルの構築や他の出版社も含めた新たな取り組みに繋がることが目指す。今後、図書館システム共同運用を基盤とする早慶協働の可能性を探っていききたい。

## 編集後記

今号では「柴辻俊六旧蔵資料（柴屋舎文庫）目録」を掲載した。解題にも記載のあるとおり、記録は元早稲田大学図書館員で、私たちが大雑把すぎるかもしれないが、あらゆる意味で大きな存在で、功績など安易に書き尽くすことは困難である。本稿掲載準備にあたり、ご本人へ連絡をしたことが最後のやりとりになるとは、思ってもみなかった。ご存命のうちに刊行することは叶わなかったが、簡単に整理ができるコレクションではなかったと、ご本人も理解くださっているだろう。

柴辻俊六『戦国期武田氏領研究の再検討

補遺（岩田書院 二〇二二年）に掲載された、「付 思い出すがままに」武田氏研究と私」には、柴辻氏の詳細年譜や著作目録、図書館での日々などが綴られている。奥様は、柴辻氏が早稲田大学教育学部に入学したことが、夫の人生の原点だと書かれている。その原点となった早稲田大学と、この図書館に収蔵された資料が、これからさまざまな研究・教育に寄与することを願っている。

今号は左記五名の編集委員にて刊行しました。玉稿をお寄せいただき心より御礼申し上げます。

図書館紀要編集委員会

阪下 清香（資料管理課長）

高木 修（資料管理課）

高木理久夫（資料管理課）

松尾 亜子（資料管理課）

山本さざり（資料管理課）

早稲田大学図書館紀要 第70号

二〇二三年三月十五日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要

編集委員会

発行人 本 木 正 人

印刷所 株式会社 正文社

発行所 早稲田大学 図書館

東京都新宿区西早稲田一ノ六一

〇三（五二八六）一七五四